

水稻育苗用マットのご紹介

はじめに・・・

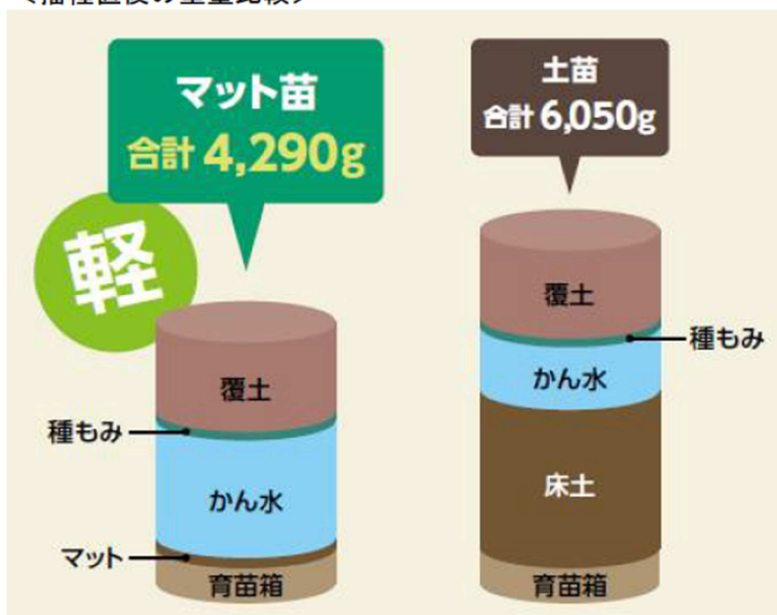
かねてより水稻育苗作業の労力軽減の観点から、水稻育苗用マット（こめパワーマット）の取扱いをおこなっておりましたが、昨年より、生産資材価格引き下げのため、水稻育苗用マットを薄物化（現行 16mm⇒変更 13mm）し、本県を含む複数県において試験ならびに検証を行い、製品化しております。

今回は、この水稻育苗用マット（こめパワーマット）の使用方法等についてご紹介させていただきます。

1. マットの特徴

- ① マット苗は、土苗に比べて、軽くなります。下記の重量比較を見ると、播種時は土苗より2kg程度軽くなることがわかります。苗を運ぶ労力負担を大幅に軽減します。
- ② 保水性が高いため、かん水頻度を減らすことができ、かん水作業の労力軽減が見込めます。
- ③ 主成分はケイ酸とカルシウムです。水稻はケイ酸を好んで吸収します。

<播種直後の重量比較>



項目	使用資材 (g)	
	マット	培土
育苗箱	600	600
床土	-	2,700
マット	140	-
かん水	2,000	1,200
種もみ	150	150
覆土	1,400	1,400
合計	4,290	6,050

※培土は比重0.9で計算

※日本ロックウール株式会社調べ

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

2. 使用方法について

① こめパワーマットのセット

- 育苗箱に肥料を塗布してある面（白い面）を上にしてセットしてください。

※穴数の多い中苗用の箱を使用する場合は、根を通しにくい敷紙が必要です。



② 初期かん水と播種

重要なポイント！！

- ムラなくたっぷりかん水（2L以上）してください。

※1. かん水前後の重さの差し引きでかん水量をご確認ください。

※2. 病害虫の防除は慣行通りにおこないます。

※3. かん水後、慣行通りムラなく播種してください。

③ 覆土

- 床土に培土を使用するよりも、やや多めが基本です。

- スリキリより2～3mm少な目の量、1. 2～1. 4kgを目安にしてください。

※1. 粒状培土を使用してください。

※2. マットが薄くなったからといって覆土を増やす必要はなく、量は従来のマットと同じ量で、結構です。（床土に培土を使用するよりもやや多め）

④ 育苗中のかん水

- 緑化期・・・最初にかん水した水が残っているので、乾燥しない程度にかん水してください。

- 硬化期・・・苗の生育具合や天候を見ながら、1～2日に1回、たっぷりかん水してください。

※1. 寒冷地では、苗の生育状況に応じて1. 5葉期頃にチッソ成分で0. 5～1. 0g／箱追肥してください。

※2. マットは水持ちが良いですが、従来品より3mm薄くなった分、保水量が少なくなるので水切れに注意してください。

⑤ 本田移植

- 移植時には、苗のすべりを良くするために、かん水してください。

- 浮苗が発生する場合は、植付深さを調整してください。

- 苗の継ぎ足しは早めに行ってください。

最後に・・・

興味を持たれた方は最寄りのJAへお問合せください。

以 上

（ JA全農にいがた 園芸部 園芸総合課 ）

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。